F-35

時代経過に伴う武蔵陵墓地の位置づけと地域との係りに関する研究

A Study on the Change of Recognition at Musashi Imperial Mousoleums

○加藤凱久[1]，　押田佳子[2]
*Yoshihisa Kato[1], Keiko Oshida[2]

Abstract: In this Study, we investigated the changes in people's perceptions about Musashi Imperial Mausoleum using articles. As a result, it was clarified that It changed from national to local cultural resources.

１．背景及び目的—2019(令和元)　年 5 月 1 日より令和の時代を迎え，明治神宮が 2020(令和 2)年に御鎮座 100 年，武蔵陵墓地が 2027(令和 9)年には造営 100 周年を迎える．このように多くの皇室関連行事に注目が集まる中，2019(令和元)年 7 月 6 日には大仙古墳など 45 基の古墳を含む「百舌鳥・古市古墳群」が，世界文化遺産として登録が決定し，天皇陵をはじめとする陵墓は今後さらなる観光利用が期待されている[1]．

そこで本稿では，造営から祭儀に至る記憶が新しい近代陵墓である武蔵陵墓地(以下，武蔵陵)に着目し，新聞記事より造営時から現在に至るまでの役割の変化を捉え地域との係りを明らかにすることを目的とする．

２．調査方法—調査の概要を Table1 に示す[2]．

３．調査対象地概要—武蔵陵は東京都八王子市長房町に位置する，　4 基の陵墓を擁する陵墓地である．各陵墓の概要を Table2 に，対象地地図を Figure1 に示す．

４．結果および考察—文献調査より，武蔵陵に関する記事は 1926(大正 15)年以降の 90 年余りの期間に 745 件抽出された．また記載内容により「武蔵陵墓地造営期」「戦時期」「戦災復興期」「平成期」の 4 時期に分類した．なお記載内容の分類を Table3，参拝者の属性を Table4 に示す[2]．以下，この分類に従い調査結果を述べる．

４－１．武蔵陵墓地造営期(1920～1931 年)—Table3 より，当期に該当する記事数は 154 件にのぼり，記載内容において，参拝(55 件)，儀式(37 件)，工事(35 件)が上位に挙げられた．儀式および工事の項目が多い背景には，1926(大正 15)年 10 月に公布された皇室陵墓令により，現在の武蔵陵が勅定されたことが挙げられる[3]．1926(大正 12)年 12 月 26 日に大正天皇が崩御，その後 1927(昭和 2)年 2 月 8 日に斂葬の儀が行われ，武蔵陵が造営されると，参拝の記事が多くみられるようになった．また武蔵陵造営に合わせ 1927(昭和 2)年 3 月に国鉄中央線東浅川駅が開設，1931(昭和 6)年 3 月に京王電鉄御陵線が開通するなど，武蔵陵に直結する交通網も整備され，前者では割安の往復乗車料金を設定，後者では高尾山などの周辺観光施設をめぐる観光パッケージが売り出されるなど，熾烈な顧客獲得競争が巻き起こった[2][4][7]．一方で，1927(昭和 2)年より八王子市の都市計画区域設定にあたり，初期計画では武

Table1 Outline of the survey (調査概要)　(This is original table by authors)

	現地調査	地図資料調査	文献調査
調査日	2019 年 5 月 5 日	2019 年 5 月 1 日 ～8 月 1 日	2019 年 5 月 1 日 ～9 月 10 日
対象 ・ 内容	武蔵陵墓地 現状確認等	今昔マップⅢ 過去の用途地域図など 土地利用の変化など	ヨミダス歴史館を用い 「多摩陵」「多摩東陵」 「武蔵野陵」「武蔵野東陵」 「多摩御陵」「武蔵陵墓地」 の検索で表示された記事

Table2 Outline of Imperial mousoleums (対象地概要)　(This is original table by authors)

陵墓名	①多摩陵	②多摩東陵	③武蔵野陵	④武蔵野東陵
造営年	1927 (昭和 2) 年	1951 (昭和 26) 年	1989 (平成元) 年	2000 (平成 12) 年
被葬者	大正天皇	貞明皇后	昭和天皇	香淳皇后
斂葬の儀	2 月 8 日	6 月 22 日	2 月 24 日	7 月 25 日

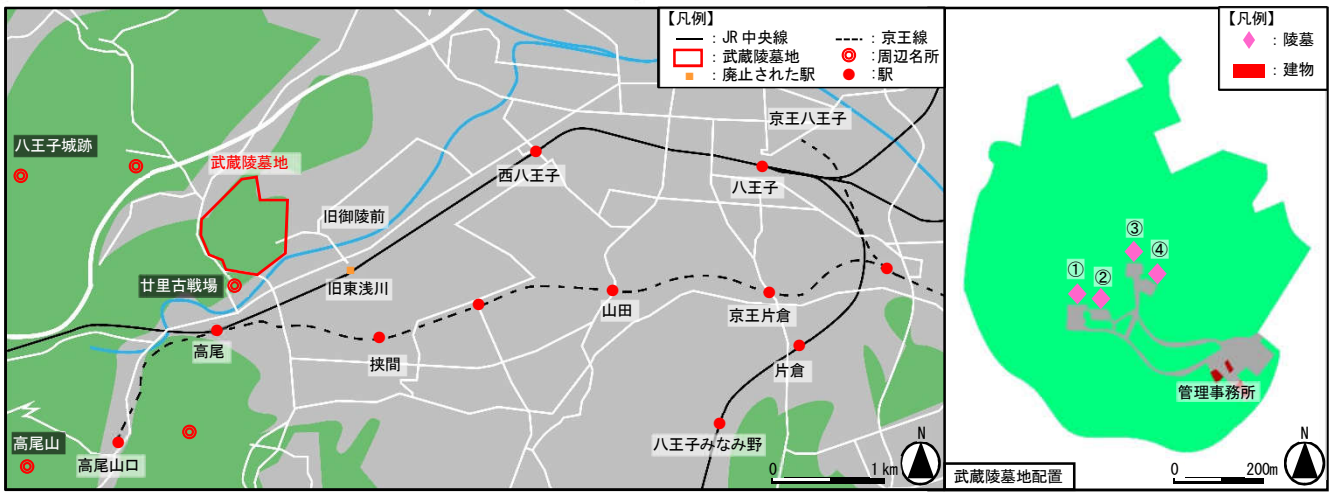

Figure1 Over view of the study area (対象地地図)　(This is original figure by authors)

１：日大理工・学部・まち　２：日大理工・教員・まち

蔵陵周辺の浅川町の一部が編入予定であったが紆余曲折を経て保留となった[4].

Table4 より，参拝者に関する記事に着目すると，他の時期に比べ市民の参拝数が多くみられた．これは，時代背景より市民の参詣の意向が強かったことに加え，当地への訪問が周辺郊外観光の一環として捉えていた側面もあるとみられる．

４－２．戦時期(1931～1946 年)—Table3 より，当期に該当する記事数は 155 件にのぼり，記載内容において，参拝(102 件)，広告(27 件)，スポーツ(14 件)が上位に挙げられた．広告に関する記事が多くなったのは，都心から日帰り圏にある多摩地域など郊外レクリエーション，とりわけハイキングブームが起こり，これに乗じた京王電鉄御陵線の観光 PR によるものである．またそれによって，これまで知名度の低かった高尾山や八王子城跡，廿古戦場などの歴史的遺産が注目を浴びた[3][5]．またスポーツに関する記事は，1936(昭和 11)年に「1940 年東京オリンピック」の開催が決定し，武蔵陵がロードバイク競技会場に選ばれたことに起因する．それに伴い周辺整備が行われ，1937(昭和 12)年に武蔵陵周辺(浅川以北)が風致地区に設定された[2]．一方で，参拝に関する記事は，1931(昭和 6)年 11 月の満州事変，1941(昭和 16)年より太平洋戦争開戦など日本の軍事色が強くなる中で国民の精神的拠り所としての意味が強くなったためといえる．これは，Table4 より時期は軍部を含む政治関係者の参拝が増加したことからも伺える．その後，戦争の激化に伴い，観光が主目的であった御陵線は,1945(昭和 20)年１月に運転休止，その後廃線となった[6].

４－３．戦災復興期(1946～1989 年)—Table3 より，当期に該当する記事数は 166 件にのぼり，記載内容において，参拝(92 件)，儀式(42 件)，スポーツ(14 件)が上位に挙げられた．儀式に関する記事が多くなった背景には，1951(昭和 26)年 5 月 17 日貞明皇后の崩御が大きく関係している．また，Table4 より 92 件中 90 件が皇室関係の参拝であり，前時期とは異なり政治色の濃いものから，結婚報告など皇室関係者のプライベートに係るものが増えている．またスポーツに関する記事は，1964(昭和 39)年開催の東京オリンピックで正式にロードバイクが開催されて以降，定期的にロードバイクの大会が開かれたことに起因する．

一方で，多摩ニュータウンなど，八王子市を含む京王線沿線の大部分は大規模宅地開発が行われ，市街地として発達した．1951(昭和 36)年には，30 年以上延期されていた浅川町の都市計画区域編入が行われたが，武蔵陵周辺は，風致地区に指定されていたことに加え，御陵線の廃線や中央線東浅川駅の廃止などと相まって，宅地開発が抑えられたといえる[2][7]．以上の経緯より，武蔵陵周辺は現在でも静寂な環境を保つことができたといえよう．

４－４．平成期以降(1989 年～)—Table3 より，当期に該当する記事数は 270 件にのぼり，記載内容において，儀式(99 件)，参拝(56 件)，武蔵陵と関係の薄いもの(39 件)が上位に挙げられた．このうち儀式は，1989(昭和 64)年１月７日の昭和天皇の崩御に伴い，1989(平成元)年に武蔵野陵が造営されたこと，2000(平成 12)年６月 16 日の香淳皇后の崩御などが関係しているといえる．一方，武蔵陵墓地と関係の薄いものとしては，2019(令和元)年５月１日の改元や百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録や，八王子市域に係るものが挙げられる[1]. 以上より，長らく武蔵陵は国家のものであったが，現代において地域との関わりが強くなってきたといえよう．

５．まとめ—以上より武蔵陵は，武蔵陵墓地造営期，戦時期と周辺観光と相まって国民の精神的拠り所として認識されてきた．しかし，戦後の社会状況の変化に加え都市開発の影響を経て，徐々に国家のものとしての役割から，地域の文化的資源としての役割の認識が高まりつつあるといえよう．現在「百舌鳥・古市古墳群」の世界遺産の認定に伴い，積極的な観光が謳われている．しかし陵墓はその性質上，荘厳性も重要となる場所であり，地域の文化的資源として，周辺開発を伴わない程度の観光活用が望ましいといえよう．

６．参考文献—[1] 百舌鳥・古市古墳群公式 HP，http://www.mozu-furuichi.jp/ ，(閲覧日 2019/9/1)[2] ヨミダス歴史館，https://database.yomiuri.co.jp/rekishikan/,(閲覧日 2019/5/1~9/10) [3] 逸見敏刀,「多摩御陵の周圍」，上田泰文堂，pp1~327，1928 [4] 多摩の交通と都市形成史研究会，「多摩鉄道とまちづくりのあゆみⅠ」，株式会社カシヨ，pp.1~226，1995 [5] 内務省地理課，「多摩の御陵を繞る史蹟，白鳳社，pp.1~2，1927 [6] 京王帝都電鉄株式会社総務部，「京王帝都電鉄三十年史」，大日本印刷株式会社，pp30~32，1978[7] 多摩の交通と都市形成史研究会，「多摩鉄道とまちづくりのあゆみⅡ」，株式会社カシヨ，pp140~172，1995

Table3 Article analysis results (**記載内容の分類**) (This is original table by authors)

	武蔵陵墓地造成期	戦時期	戦災復興期	平成期以降
儀式	37 件(24.0%)	6 件(3.9%)	42 件(25.3%)	99 件(59.6%)
参拝	55 件(35.7%)	102 件(65.8%)	92 件(55.4%)	56 件(33.7%)
工事	35 件(22.7%)	1 件(0.6%)	2 件(1.2%)	28 件(16.9%)
周辺工事	3 件(1.9%)	0 件(0.0%)	0 件(0.0%)	6 件(3.6%)
スポーツ	0 件(0.0%)	14 件(9.0%)	14 件(8.4%)	9 件(5.4%)
広告	8 件(5.2%)	27 件(17.4%)	1 件(0.6%)	1 件(0.6%)
事件	6 件(3.9%)	2 件(1.3%)	6 件(3.6%)	4 件(2.4%)
武蔵陵と関係の薄いもの	7 件(4.5%)	2 件(1.3%)	7 件(4.2%)	39 件(23.4%)
その他	3 件(1.9%)	1 件(0.6%)	2 件(1.2%)	28 件(16.9%)
計	154 件	155 件	166 件	270 件

Table4 Worshipers analysis results (**参拝者の属性**) (This is original table by authors)

	武蔵陵墓地造成期	戦時期	戦災復興期	平成期以降
皇室関係者	22 件(40.0%)	58 件(56.9%)	90 件(97.8%)	36 件(64.3%)
政治関係者	12 件(21.8%)	43 件(42.2%)	0 件(0.0%)	3 件(5.4%)
一般者	21 件(38.2%)	1 件(1.0%)	2 件(2.2%)	17 件(30.4%)
計	55 件	102 件	92 件	56 件